

色染物質会

会誌 第3号

Index

ページ		ページ	
1	会長の挨拶	8	クラス会だより S35年
2	第3回総会議事録	9	クラス会だより S53年
3	学長メッセージ	10	京都の史実(2)
4	第3回総会・資料	14	文様染の系譜 (4)
6	クラス会だより S29年	18	奈良のこと (3)
7	クラス会だより S31年	21	会員名簿

2013年5月発行

総会延期について

会員各位におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は当「色染物質会」の運営にご協力をいただきまして篤く御礼申し上げます。

昨年11月に第3回総会を開催しましたところ、参加者は21名に留まり、一昨年の総会に比べましても少人数の総会になりましたが、懇親会では豊富な話題の中参加者全員が盛り上がり、充実した一刻を過ごすことができました。席中、「総会月」につきまして、{何かと行事の多い「11月」を避けるべし}との問題提起があり、「開催月」を検討することになり、皆様にアンケートでお諮りの結果「6月開催」に決定された次第です。会則第10条の会計年度は（4月1日から翌年3月31日）に変更する予定です。会員の負担軽減の観点から第3期会計年度（24年10月～25年9月）を半年延長し（24年10月～26年3月）といたします。従いまして総会を来年6月まで延期することになりました。次期総会まで若干の間延びが懸念されますが、「散策会」「会誌発行」「HP充実」等の諸策で「空白」を補いたいと存じますので、ご了承いただきますよう、また各行事への積極的なご参加ご協力をお願いいたします。

平成25年3月16日

会 長 佐藤 忠孝

第3回総会議事録

日 時 平成24年11月10(土) 15:00 ~ 16:30

場 所 工芸繊維大学 工織会館 多目的室

参加者 21名

西川三郎、吉岡悠(28年卒) 和田弘(31年卒) 佐藤忠孝、横山清一郎(34年卒)

飯井基彦、園田英雄、鈴江登、中村準市、坂東久平、法貴英夫、松岡謙一郎、松木雄一郎、山田英二(35年卒)

加藤維希夫(36年卒) 山崎治忠、山中寛城(37年卒) 高木恒男(47年卒) 犬伏康郎(48年卒)

後藤康博(50年卒) 神野友香子(57年卒)

議事内容： 進行：事務局 松岡謙一郎

松岡氏から現会員数、出席者数、委任状提出者数が報告された。

現会員数 180名

総会出席者数 21名

委任状提出者数 90名

委任状を含む出席者数は111名(会員の62%)となり、総会は成立した。

続いて佐藤忠孝氏を議長に推薦し承認された。

議題 1	第2期事業報告	佐藤忠孝	資料1
議題 2	第2期決算報告	山崎治忠	資料2
議題 3	第2期会計監査報告	加藤維希夫	資料2
議題 4	第3期事業計画(案)	園田英雄	資料3
議題 5	第3期予算(案)	園田英雄	資料3
議題 6	役員を選出(案)	佐藤忠孝	資料4
議題 7	その他	松岡謙一郎	

議題1~6は資料1~3の内容で承認、可決された。議題7は総会、懇親会への出席者減少対策として、次の提案があった。

- 1) 総会、懇親会の開催月が現状の11月は他の行事と重なることが多いので、例えば6月に変更する案を会員に諮る。
- 2) 物質工学科卒業生勧誘のための第一段階として、川瀬、三木両教授、職員、学生を次回懇親会に招待する。このことは会員増強策としても必要事項であり大学サイドへの積極的なアプローチを望むとの参加者からの意見もあった。
 - 1) は承認され早急に会員にアンケートを実施することになった。
 - 2) は当方の要請に大学サイドがどの程度応えられるのか、疑問視する意見もあり、検討事項になった。

報告事項

* 古山正雄学長のメッセージ「色染物質会総会の開催にあたって」をコピーし出席者に配布した。

- 1) 名簿整備状況 松岡謙一郎
- 2) HP関連 坂東久平
- 3) 旧色染会残余金受領 佐藤忠孝
- 4) K I T支部等支援金受領 佐藤忠孝

- 1) K I T同窓会総務委員長、森本一成教授、K I T同窓会専務理事、志賀均氏と打ち合わせを持った。色染科卒業生1340名の内住所不明者は、約20%の280名。当面のS28年~50年卒の90名のうち70名強の住所が判明した。特に役員各位のご協力に感謝いたします。S51~60年卒の住所不明者約80名につき引き続き調査中。
- 2) HPの掲載は坂東久平、渡邊勝彦の両名が担当している。掲載内容も適宜更新し、ヒット数も年間で3000強を数え会員の関心度の高さが窺える。
- 3) 平成24年3月に旧色染会残余金88万円を受領した。
- 4) 平成24年10月にK I Tから支部等支援金5万円を受領した。

以 上

色染物質会総会の開催にあたって

本年4月に学長に就任いたしました古山正雄です。

本学は、ご存じのとおり京都高等工芸学校および京都蚕業講習所に端を発する110余年の歴史の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築きあげてきました。このような伝統をもつ大学で、8年間の理事・副学長の経験を活かして、学長として職務にあたることを光栄に思うと同時に、責任の重さを日々感じているところです。幸いに優れた教職員に恵まれ、熱意と純朴さを持っている、鍛えがよい学生たちに囲まれて、本学のいっそうの発展に注力する毎日を過ごしております。

同窓会の皆さんには、日頃から本学に対する温かいご支援とご助言をいただき、また学生の就職に関しましてもご配慮をいただいております。その感謝の気持ちも込めて、大学の喜ばしいニュースについてご報告いたします。

2012年8月、本学の卒業生であるダワージャブ・ガンホヤグ氏が、モンゴル国の鉱業大臣に就任されました。ガンホヤグ氏は、1985年に本学工芸学部色染工芸学科に国費留学生として入学、1989年に卒業されました。本学で学んだ元留学生が、このような活躍をされていることは、本学にとっても大変な誇りです。

今年はモンゴル国と日本の外交関係樹立40周年にあたり、政府間でも協力関係の強化が謳われている折、モンゴル日本友好議員連盟会長として来日されたこともあるガンホヤグ氏の大臣就任により、両国間の友好関係がさらに発展することを祈念しています。

最後に、これまで大学が発展・充実できましたことは、同窓会をはじめ、各界、各関係者のご支援・ご協力があったることと深く感謝申し上げます。今後は、この栄光の歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性に基づく技術の創造を目指して技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美と技の融合を目指し、教育研究の成果を世界に発信していきます。

同窓会の皆さん、後輩たちのためにこれからも引き続き本学へのご支援とご助言を賜りますことを心よりお願い申し上げます。

平成24年11月吉日

京都工芸繊維大学長 古山正雄

第3期 事業計画及び予算案

色染物質会 第3期事業計画と予算案

	項目	予算	内 容	説 明
収	前期繰越金	1,136,993		
	会 費	152,000	会員190人×納付率80%×1000円	
入	KITからの支援金	50,000		
	計	1,338,993		
支	(事業計画)			
	新年会	4,000	交通に便利で集まりやすい京都駅前のホテルで昼食懇親会。 定例的にする(1月最終土曜日)	
	春散策	4,000	近畿中心で観光または工場見学(4月第3土曜日)	
	秋散策	4,000	奈良散策(10月14日に田原の里を実施済み)。	
	体育文化	4,000	ゴルフ大会(10月20日に枚方国際GCにて実施済み) 会員作品展など。まずHPに掲載し希望者を募り3-4組あれば幹事で具体化。 作品展はまずHPから。	
	会報発行	65,000	2回(努力目標)発行する(A4サイズ、200部、4月号20P程度、10月号40P程度)総 会案内状、返信ハガキ同封	
	講演会	10,000	講師への謝礼。講師は会員又は母校教員にお願い(総会日)	
	総 会	15,000	会場費、来賓費用	
	事務費	48,000	28,800円(会誌送料80円×180名×2回) 9,000円(返信ハガキ180通) 5,000円(消耗品費) 5,000円(通信費)	
	交通費	35,000	実費を支払う	
	臨時費	43,000	色染物質会設立準備委員会に関連する交通費については現会員(物故者、退会者を 除く)に対して次の基準に基づいて支払う。京都市内居住者、1,000円/回、京都市 外中距離居住者、1,500円/回、京都市外遠距離居住者2,000円/回	
	HP維持費	20,000		
	予備費	10,000		
	次期繰越金	1,076,993		
	計	1,338,993		

色染物質会第2期決算書

平成23年10月1日～平成24年9月30日

収入の部		支出の部	
繰越金	136,993	通信費	27,340
会費	177,000	事務用品 印刷費 消耗品	14,701
寄付金	880,000	総会費用	4,478
懇親会残金繰入	14,000	HP掲載料(3月～8月)	8,820
利息	51	雑費(ソフト、手数料)	3,465
		備品	7,560
		会議費	5,416
		支出小計	71,780
		次期繰越金	1,136,264
合 計	1,208,044	合 計	1,208,044

上記の通り決算を監査したところ間違いのないことを確認しました。

平成 年 月 日

色染物質会幹事: 監査役 加藤 維希夫



色染物質会 第3期 役員名簿

平成25年2月25日

名誉会長		古川敏一	昭・14年卒	
顧問		萩原理一	昭・28年卒	
顧問		山中寛城	昭・37年卒	
会長		佐藤忠孝	昭・34年卒	事務局・総務
副会長				
幹事		横山清一郎	昭・34年卒	
		園田英雄	昭・35年卒	
		松岡謙一郎	昭・35年卒	事務局・総務
		坂東久平	昭・35年卒	事務局・広報
		加藤維希夫	昭・36年卒	会計監査
		山崎治忠	昭・37年卒	会計
		渡邊勝彦	昭・38年卒	事務局・広報
		梶原俊明	昭・41年卒	
		高木恒男	昭・47年卒	
		犬伏康郎	昭・48年卒	
		後藤 康博	昭・50年卒	
		白井文朗	昭・52年卒	
		神野友香子	昭・57年卒	

色染昭和29年卒同期会

私達の 小、中、&高校等の同窓会の半数は80歳の大台を超えたので もう中止との寂しい雰囲気の中 我々29年卒の色染科は 今年も無事に集まることが出来ましたが しかし卒業当時の人数から見れば今回の

参加者は 1/3弱の8名とかなり 侘びしい集いとなりました

日時・・・平成24年11月8日 正午～15時

会場・・・京都駅 伊勢丹内 上階の加賀屋

この宴席から窓越しに 遠く比叡山が眺められ 否応なしに 学生時代を回顧して 新旧を交えた話題も何かと出てきて 懐かしさが倍増 予約時間の3時間も 夢のように あっという間に過ぎました

そんな中で この会を今後 どうするか との声は かなり強い中 種々の意見を要約すれば

- 1) 会場は遠方よりも 京都近郊が一番良い
- 2) 京都でも1泊したい(宿泊できない人は 宴会だけで帰ってもらう)
- 3) 少人数でも良い 集まれるものだけでも 続けよう

とのことで 来年以降も ずっと続けることになりました 直ちに次回幹事は西村孝一郎君に決定しました



写真添付します

後列 左より 寺田昌平、山方秀夫、梅本 顕、金光範明

前列 左より 時岡嘉一郎、西村孝一郎、西野俊雄、芝山達雄

(色染 昭29・時岡嘉一郎)

イロヨン会（色染昭和31年卒）クラス会

平成24年10月4日 石山寺と南郷温泉

昨年は東山山麓智積院で長谷川等伯の障壁画や庭園を鑑賞しましたが、今年は源氏物語に縁あるとされる石山寺を、シニアボランティアガイドの説明を受けながら寺内を散策し、南郷温泉二葉屋にて会食、歓談のひと時を過ごしました。

今回の出席者は小倉、小阪、島谷、中山、安田、湯川、米長、和田の 計8名でした。



（色染 昭31・和田弘）

さんごかい 35会（昭和35年卒）クラス会

平成24年12月1日(土)の午後、宇治市内の世界文化遺産など紅葉真っ盛りの史跡巡りを11人の参加を得て実施しました。

当日の天気予報は近畿地方一円で雨または曇りとなっており、心配していましたが幸運にも、宇治市内ではJR宇治駅前での集合時に、ほんの僅か時雨たのみで、次第に天気は回復し絶好の逍遙日和となりました。

最初に訪れた平等院では鳳凰堂は大修理中でしたが、ミュージアム鳳翔館内で梵鐘や天女像など多くの国宝や重要文化財を見ることができ、特に今回初めて公開された国宝「日想観扉絵」の彩色が、最新の分析化学手法を駆使して再現されていたのは圧巻でした。

次いで宇治公園の中之島を經由福寿園宇治工房で製茶工程を見学、宇治神社と本邦最古の神社建築で世界文化遺産の宇治上神社、紅葉に彩られた源氏物語ミュージアムや琴坂で名高い興聖寺などを散策後、おしゃれなフレンチ料理とワインに舌鼓をうち大いに盛り上がりました。

当日の出席者は、前列左から坂東、鈴江、林、中列左から法貴、飯井、後列左から園田、松木、衛藤、松岡、安部田、山田の計11名でした。

(色染・昭35年 飯井基彦)



クラス会だより・色染昭53

平成24年 忘年クラス会

12月30日に毎年恒例の色染53年卒の同窓会が、南森町の大坂天満宮近くのキーストーン(ラウンジ)を借り切って開催されました。今回は、同窓生9人の参加と、店のマスターも特別会員として参加し、合計10名での開催となりました。

平成23年の1月に、同級生の鋒山(ほこやま)君が急逝したことを同窓会誌の物故会員名簿から知り、院生時代も共にした藤田君が約5年ぶりに参加いたしました。鋒山君は、学生時代、アメフト部に所属し、華奢な体格ながら、きついランニング練習にも、気を失う寸前まで頑張りつづけた勇姿を皆で偲びました。

今年もとりとめない話で盛り上がり、お酒がすすみました。飲みすぎると、31日がしんどいとわかっているにもかかわらず、毎年、飲みすぎます。浜松から、新幹線でとんぼ返りで参加した、紅一点の西村女史が、学科入学時のオリエンテーションの時に、各自が書いた自己紹介文集を持参してきており、皆で懐かしく読みました。それぞれ個性ある青年たちであったことが記録されており、色が褪色したその文章の保存方法についていろいろな意見が出ました。ただ、ほとんどの者が自己紹介を自己紹介と誤記しており、国語力の低さを露呈しておりました。また、当時の担当教官が書いた黒板の文字が間違っていたのでは?という説もあり、皆で大笑いし、来年も再開することを誓いお開きとなりました。(文責 高橋)

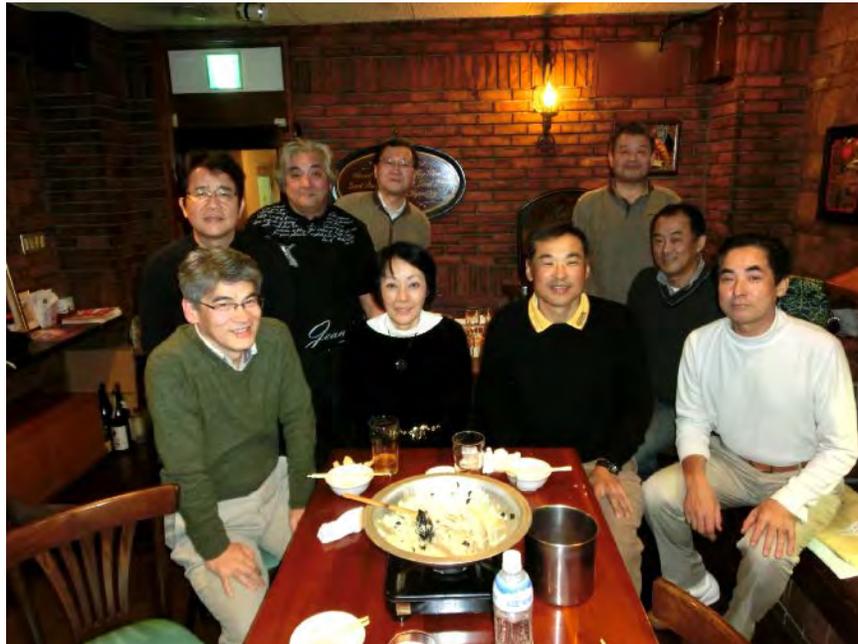


写真 前列左より 藤田 西村(旧姓 梶原) 藤村 長井
中列左より 高橋 角 伊山
後列左より 前田 森川 (撮影 店のマスター)

知っているようで知らない京都の史実 No.2 京都の南には巨大な巨椋池があった

* 京都と奈良と大阪の位置関係 *

京都駅から近鉄に乗車し近鉄奈良線を走っていると、京都駅から少しの間京阪電車とJRと3線が平行して走っているのに気付きます。何故こんな無駄な計画を明治時代に行ったのかと巨椋池の存在を知らない現在の人々は疑問を感じる筈です。

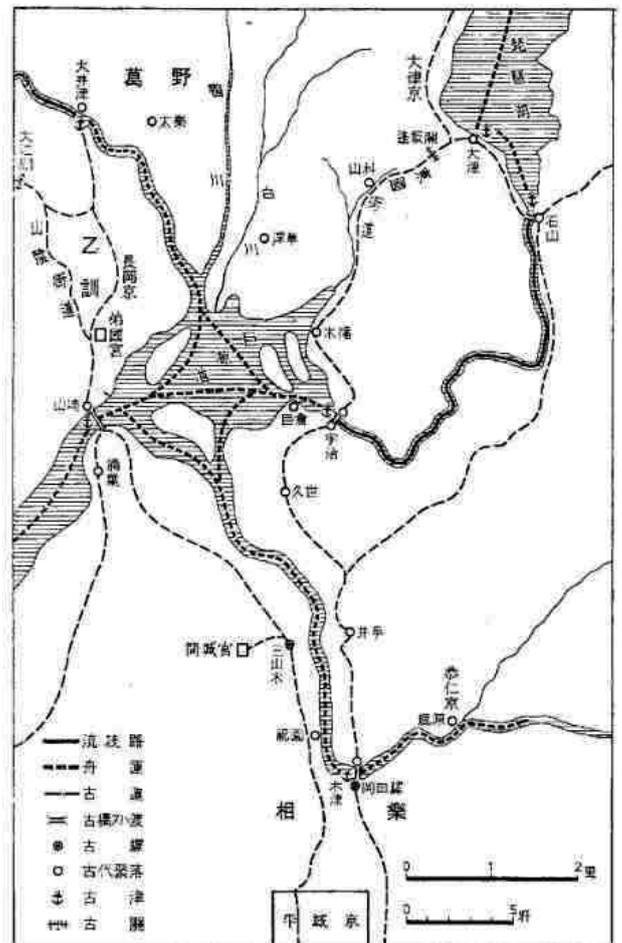
近鉄の駅でいうと、伏見の次の【丹波橋】～【寺田】間に7駅ありますが、秀吉による本格的な巨椋池の改修工事が始められるまでは、この辺りは全て湖沼地帯でした。伏見の対岸は現在の向日市と長岡京市ですが、周囲が30kmにも及ぶ大きな沼地だったのです。淀川の東側を通過して奈良と大阪に向おうとすると、必ず伏見を通過せねばならなかったのです。

* 上代の巨椋池の状況 *

長岡京や平安京が開かれるまでの巨椋池近辺の想像図をみると、その状況が良く理解できます。奈良の【都】を琵琶湖に移すか、長岡京にするか、あるいは京都にするかは巨椋池の存在を無視しては不可能でした。琵琶湖の下半分に匹敵する巨椋池の規模が判ります。

奈良の東大寺を初めとする多くの寺院や天皇家の建物等多くの建材は、琵琶湖南部の山々から伐り出され、宇治川⇒木津川⇒木津港⇒奈良の建築現場へ運ばれました。木津の地名は木材が集まる港の意味でした。最も、巨椋池は琵琶湖のようにいつも満々と水をためていた訳ではありません。巨椋江とも云われていた様に、最大に水が溜まった時の水面が図のようだったというに過ぎません。普段は沢山の島が江の内にあり、向島や槇嶋等はその通り巨椋池にある【島】だったのです。桂川、鴨川、宇治川、木津川、四つの大きな河川が【巨椋江】で集まり、大きな水溜りとなっていました。川の流れはいつも緩く、よどんでいました。【淀】の地名はここから発生したとする説が有力なのはこの事が裏づけとなっています。

桓武天皇により平城京から平安京への遷都が行われましたが、その前に大津京と長岡京への遷都が行われています。この三つの遷都先には共通点があります。大津京と長岡京は西から東になだらかな勾配、平安京は北から南に同じくなだらかな勾配があります。



大津京と長岡京の失敗の原因を論じる心算はありませんが、この二つはいずれも裾野が水面に近く、都としてはその面積に難点があった事は明らかです。平安京はなだらかな勾配が巨椋池迄続き、面積では先の二者と比較になりません。奈良時代後期には鋼鉄による農機具の改良が大幅に実施され、それによる生産増は当然人口増を招いたと思われます。藤原京時代の人口は10万人程と推測されていますが、平安京の時点ではこれに数万人が増加していました。即ち、都の規模を大きくする必然に迫られていたようです。

* 鎌倉時代初期までは水洗便所だった *

突然トイレの話になり恐縮ですが、上代から鎌倉時代初期まで日本のトイレが水洗式だった事をご存知でしょうか。かわやという言葉を出していただき。【厠】とも【川屋】とも書きますが、川（小さなせせらぎ程度 遣り水ともいう）の上にトイレが建てられていたのです。その川の両端には当然熊笹が植えられており、笹の葉の上に載った便はご想像の通りに処理されます。

前節で述べた緩い勾配は都の設営には欠かせない【必要条件】でした。禁裏をはじめ高官達の住まいは当然【上手】勾配の上にあります。奈良の藤原京が10年余で廃され、平城京に代わったのは、藤原京が逆勾配だった事に今回初めて気付きました。実際にそこで暮らす人々にとっては大問題であった筈です。

平安京（旧京都市内）は、この条件を満たすには持って来いの地形だったのです。事実今の京都御苑には鴨川から、旧御所にはその為の【紙屋川】という川まで作られているのです。紙屋川は下流になると【天神川】に名が変わりますが、これは北野天神さんから流れてきた川という意味です。何故上流は【紙屋川】なのかはよく判りませんが、《紙屋が儲かる川》だとは考えられませんか。ご想像にお任せします。

我国のトイレが【肥え壺式】に代わるのは、平安時代後期の平家全盛期以降です。人糞が肥料として目覚ましい効果があるという事が判り、その上大きな壺を作る技術が普及してきてからなのです。一般化するの徳川時代にはいつてからのようです。

* 巨椋池に最初の本格的工事を実施したのは秀吉である *

少しわき道にそれましたが、巨椋池に最初の本格的工事を実施したのは秀吉です。その目的は《朝鮮使節を迎え入れるため》でした。秀吉はこの工事前既に大阪城を完成させています。そして、朝鮮へ進出の足がかりを作るため、朝鮮に使節を送るよう使者を送っているのです。その使節を伏見の【隠居所】と自称する伏見城で謁見しようとしていたようでした。



左図は改修直前の巨椋池ですが、池の島を利用して宇治川の西側に小倉堤と槇嶋堤を作りました。左図の1から17までは巨椋池にあった主な島です。1は槇嶋で夷島、大八木島、雲雀島と大きいものだけで17あったという事です。この島の名は現在でも地名の【字】として残存しています。

宇治川はこれにより北に大きく流れを変え、後の豊後橋付近で西に進み、伏見の城下を流れ、淀堤を経由して淀川に流れ込む事になりました。

この工事の目的は、伏見に港を作り、伏見城下へ淀川から直接舟を入れるためと、増水した巨椋池の水が伏見城下に流れ込むのを防ぐためです。

新たに出来た小倉堤は島伝いに堤防となり、新大和街道となりました。これにより奈良への距離は大幅に短縮されたこととなります。この二つの堤は現在でもかなりの大工事ですが、先の地震で倒壊した【伏見城】の再建と一緒に実施しました。25万人という想像を絶する人員を投入したとは云え、堤の建設を秀吉は僅か半年で完成させています。

この事に当時の土木技術の高さと速さには驚かざるを得ません。信長が建てた【安土城】といい、秀吉の大阪城や家康の江戸城等、そのスピードには驚くべきものがあります。

以後小倉堤と槇島堤で囲まれた地域の埋め立てが始まり、この地域の事を【向島】と呼ぶようになりました。またこの二つの堤を含め、秀吉が築いた堤の事を【太閤堤】と総称するのにもよく知られているところです。

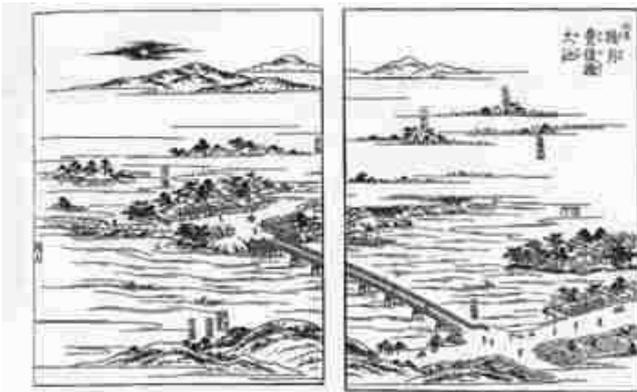
秀吉は淀川を利用した水利権を地元の業者2名に認可し、大阪と伏見を結ぶ水路が確立しました。次いで家康も引き続きこれらを追認し、巨椋池を含め遠く木津港まで認可を拡大させます。

家康は淀から浪花までの淀川右岸の堤防追加工事を行い、これにより、三十石舟が往来出来る水路として大発展するに至りました。江戸時代の巨椋池は中に沢山あった島の周りに堤防を築き、内部を耕作地や住居地にしました。



秀吉が作った太閤堤の概要

島からの交通手段は当然舟でした。この状況は明治40年代から始まる【巨椋池干拓工事】まで続きます。江戸時代に入っても巨椋池は再三洪水を起こしていました。洪水に伴う様々な抗争が記録に残されています。巨椋池はこの時代になってもさほど小さくなっていません。淀近くの沼地は解消されておらずよどんだ川がゆるゆると浪花に向かって流れているだけでした。



「都名所図会」巻五 伏見指月、豊後橋、大池

左図は江戸時代の豊後橋付近を描いた草子ですが、この絵からも巨椋池の規模の大きさが充分覗えます。京都の南部には海に面していないにも拘わらず、漁業で生計を立てている東一口（ひがしいもあらいとよむ）村がありました。現在の久世郡久御山町東一口で戸数は約200戸、全て巨椋池に出て取れたものを伏見の港等で販売していたようです。これだけの人口を支えられるほど豊かな魚貝類が生息していたのです。

これほど大きな巨椋池が僅か100年前に京都の南部にあったのです。近鉄小倉駅から京都に向う車窓からは左手に延々と水面が数kmに亘って続いていました。向島を過ぎても未だ少し残っていたようです。この風景は昭和16年に至るまで残っていたと近鉄社史にも記録されています。

* 巨椋池の改修工事は明治政府の最初の国策工事 *

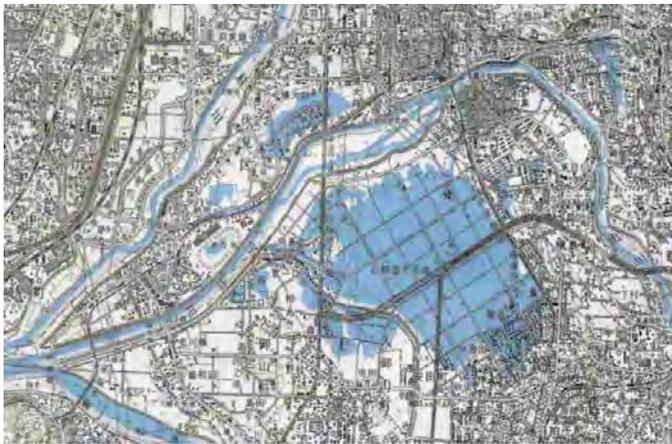
明治18年6月に台風が近畿地方を襲い、巨椋池周辺は大洪水に見舞われます。1ヶ月経過しても水は全く引かず、この年の水田は全滅という事態が起きました。この洪水を契機として、大阪府、京都府、滋賀県の間には洪水の再発防止を求めた淀川改修運動が起きました。

このとき明治政府はすばやく対応します。7月に護岸工事で先進国のオランダに依頼し9月にはオランダから数名の技術者が来日し、翌年3月には具体策のあらましを明治政府に提出しています。そして明治21年から第1号の国策工事として、正式に着工しています。

工事の概要は【琵琶湖瀬田川に堰を新設】【淀川本流の拡幅】【宇治川流路の付け替え】等の大工事で、明治31年には【瀬田の洗堰】が出来上がりました。

これに伴い宇治川の流路付け替え工事がはじまり、宇治川はこれにより巨椋池に入ることなく直接淀川に流入することになります。この工事は10年余掛かり、明治40年頃に完成したようです。この大事業により、淀付近、巨椋池湖岸、桂川右岸の水害は大きく軽減され、周辺では安定的な農業経営が可能になりました。古老の話では毎年の如く田畑が冠水し、3年に一度の収穫があれば良い方だったとの事です。

下図は本格的な干拓以前明治40年代前半の頃の巨椋池周辺の水面図ですが、宇治川と木津川が淀川に直接流れ込んでいるのが判ります。巨椋池の周囲はこの時点でも約20Km弱ありました。



明治末期から大正と干拓は細々と続けられていましたが、昭和8年から本格的に干拓事業が進められ、昭和16年干拓事業は取り敢えず完成しました。時は第2次大戦前、色々な観点から急いだのでしょう。この干拓地の完成と既耕地の土地改良により米4500t(3万石)の増収をもたらしたと記録されています。天皇賞で著名な淀の競馬【京都競馬場】は大正の末ごろ競馬クラブとしてようやくスタートしています。まだ本格的な競馬場には認定されていなかったのです。

埋め立てが完成した後も、巨椋池の痕跡はまだ続きます。昭和28年の台風13号による風水害で宇治川の堤防が決壊しました。また近くでは昭和61年にも水害が発生しています。このように干拓地は現在でも低地のため何かあるとすぐ浸水地帯になるのです。このため大掛かりな排水機場が設置され、今日でも異常降雨のような事態が発生すると、毎日数百トンの排水作業が行われる仕組みになっています。

また極最近までこれら干拓地には居住用建築物の許可が殆ど認可されていなかったのも、何時浸水するかが不明だからでした。巨椋池の排水機場はその為の設備なのです。



(色染・昭35 松尾秀明)

文様染の系譜 (4)

平安時代の文様染はどちらかと言えば低調であった。我が国は奈良時代から平安時代にかけて、隋、唐の文化に倣い、政治には律令制度を積極的に取り入れ、公家の着衣は位階によって、細かく定められていた。唐の宮廷が織物中心の世界であったので、我が国もそれに倣い、文織物の衣冠を着け朝儀に参じた。しかし文様染も全く行われなかったのではなく、摺り文、纈纈、夾纈等は絶やすことなく行われていた。

鎌倉時代を経て室町時代になると、公家に代わって武士が台頭する。建築様式は寝殿造りから書院造りとなり、生活様式そのものも変化し簡略化された。それまで下着であった小袖が表着となり、これに直接絞り染をしたり、型染を行ったりした。公家社会では絹織物が多かったが、武家の社会では酷使に耐える麻やその他の靱皮繊維が多く用いられた。

桃山時代から江戸時代初期にかけて盛んに染められた辻が花染は、正倉院御物を原点とする彩絵と絞り染がコラボレートしたものである。

中世の武士は戦場が稼ぎどころである。目立つ姿で武勲を誇示しなければならない。それに当時武士の間に流行した娑婆羅の風潮も相俟って、目立つこと、注目されることに共感を呼び、一躍文様染が注目されるようになった。

先に、ポルトガル、オランダ、中国の船が海外の珍しい染物や織物をわが国に運び込んだこと、そして其のうち文様染の織物を更紗と呼ぶことを記した。更紗は奇抜な文様と配色が日本人の興味を引き珍重されたが、その輸入量は少なく到底需要を満たすことは出来なかった。

江戸時代初期から中期にかけて、京都の染色業は細分化され、その記録が残っているが、それによると、紺屋、^{べにし}紅師、茶染師、紫師、に交じって^{しゃむろし}紗室師が見える☆ⁱ。紗室師とは更紗を染める職人を指すものと思うが、詳しいことは分からない。いずれにしても需要があるのだから、それに答える職人が現れるのは当然だが、多分手書き更紗で生産量も少なく、量産されるようになるのは、江戸中期から後期にかけて出現する和更紗を待たねばならない。

京都工芸繊維大学美術工芸資料館には、通称オランダ更紗と呼ばれるコレクションがある。寛永の鎖国以降、長崎はオランダ船と中国船を迎え入れる唯一の公的な国際貿易都市となった。この長崎を窓口として入って来た人と物と情報は、時の中央権力である江戸幕府の管理下に置かれた。物即ち輸入品は、各種の手続きを経て、日本側の役人である目利きによって鑑定、評価が下され国内市場に流通した。輸入反物に関しては、反物目利きと呼ばれる役人によって鑑定、評価され、同時に作成された「端物切本帳」等と称する資料が、公立博物館、個人コレクター等に所蔵されている☆ⁱⁱ。京都工芸繊維大学美術工芸資料館は、AN-71 阿蘭陀輸入品古裂地見本帳裂地見本 8 冊 (図 1 ~ 4 参照)、AN-90 紅毛船端物切本帳 1 9 冊の 2 点計 2 7 冊を所蔵する。1 冊は半紙を横二つ折りし、AN-71 では平均 42.5 枚、85 頁を和綴にした帳面に、更紗の場合はヨコ 1.2 センチタテ 3 センチほどの切れ見本を 1 ブロック 10 枚程、1 ページに 2、3 ブロック添付している。更紗に関する資料の頁数は全体の約 1 0 % であるが、切れ見本数は多い。殆ど江戸末期 (1850 ~ 1860) の記録で、その中に大量の尺長更紗が含まれている。1 反 8 丈何尺等と記したものもあるが、これも不揃いである。サンプルが小さくて判然としないが高級なものは少なく、ヨーロッパ

のどこかでローラー捺染機で生産したものであろう。



図一 1 阿蘭陀更紗表紙
京都工芸繊維大学美術工芸
資料館蔵 AN-71



図一 2 阿蘭陀更紗
京都工芸繊維大学美術工芸
資料館蔵 AN-71



図一 3 阿蘭陀更紗
京都工芸繊維大学美術工芸
資料館蔵 AN-71



図一 4 阿蘭陀更紗
京都工芸繊維大学美術工
芸資料館蔵 AN-71

この時期捺染の先進国イギリスやフランスでは、高級捺染はインテリア関係のものが多かったが、日本では全く需要がなくむしろ衣料用のものが好まれ、それに相応しいものが運び込まれたのであろう。中にはマシーングランドの繊細な文様もあり、日本人には非常に珍しく、モダンな印象を与えたのかも知れない。素材は綿の金巾が多く薄手のローンや変わり織もある。

江戸時代中期には、消費の主流は特権階級から町人へと移り、江戸末期には、綿の栽培が近畿の河内平野周辺で活発に行われるようになると、需要に答えて更紗の国内生産が始まった。和更紗である。

かつての貿易港で綿の産地河内平野が控え、紗室師もいる染めの本場京都に近い堺で、更紗の国産化が始まるのは自然の推移である。当初手書きであったものが、納期の都合などから、次第に弁柄、代赭、黄土、藍蠟、群青等の顔料を型紙で摺り込む技法を採るようになった。鍋島更紗は佐賀鍋島藩の庇護のもと、鍋島焼等と共に藩の御用品として作られたものである。括りの黒線だけ木版を用いるのが特色で、彩色は型紙を用い顔料を摺り込んでいる。貿易港である長崎では、天明年間（1781～89）に更紗を作り始めたと言われる。

人物模様が多く、蘇芳と明礬を合わせて泥状にしたやや茶色掛った赤色を縁取りに差すのが特色とされる☆ⁱⁱⁱ。いずれにせよ和更紗は染料ではなく顔料を使用しており、インド更紗のように強く洗濯することは適わず、あまり洗濯することのない布団地、風呂敷、油単（布に油をしみ込ませたもので、湿気や汚れを防ぐための覆いとして使用された）等に用いた。その為、プリント柄の蒲団地は今でも更紗と呼ぶ。現在のように、包装紙やパッキングケースの無かった時代は、大小の風呂敷は重宝であった。道具類は風呂敷に包み、蔵の中で整理して保存したと聞く。

話は少し横道にそれるが、江戸錦絵の中で描かれた子供の晴れ着と、寝装具について触れておきたい。先に少し触れた江戸錦絵、俗に言う浮世絵は木版印刷の一種である。とはいえ、色数が多く、型合わせが正確で、紙に湿度をもたせ、入念に摺りを行うので、色が紙背にまで浸透し、異国の印刷に比べ、抜群の発色と落ち着きを醸し出す。江戸錦絵は江戸の最新情報を地方に伝える貴重な媒体で、旅人は必ず江戸錦絵を土産に持ち帰る。当時吉原のスター花魁が、どのような髪形や化粧をし、どのような文様の着物や帯を、どのように身につけたか、事細かに絵に描いて伝達した。他に対象になるのは市井の美女、歌舞伎、相撲、花鳥風月、暦、狂歌、東海道、富士観光等テーマは江戸を離れ、当時流行のツアーにまで及んだ。当時の子ども衣料については子供絵、寝装具の情報については春画でその詳細を知ることが出来る。



図-5 子供絵
江戸の子供たち
くもん子ども研究所蔵



図-6 子供絵
江戸の子供たち
くもん子ども研究所蔵



図-7 子供絵
江戸の子供たち
くもん子ども研究所蔵

子供絵は、今まで研究者やマニアの間で殆ど話題にならなかったが、1985年鈴木重三が子供絵について「近世子供絵考序説」を発表して、江戸錦絵のジャンルの1つとしてその地位を確立した。

同時に「くもん子ども研究所」が子供絵の収集と研究を開始し、それを収録した「浮世絵の中の子どもたち」を発刊すると共に、国内外で盛大に展覧会を開き、日本の子供が江戸時代いかに学び、いかに遊んだかを、世界に衆知せしめた☆^{iv}。この図鑑で見ると、更紗の着物を着た子が沢山いる。ここに登場する子供たちは殆ど江戸の町人の子であるように見受けられる。祭りか年中行事のために、親が苦勞して整えた晴れ着かも知れない。

いずれにしても日常普段着とは思えない、はれの日にはこの様に着飾ったのであろう。子供の招福、除災を願う親心と、海外（中国）流行情報の積極的な摂取が見られる☆^v子供たちは屈託なく遊びに興じており、汚れることなど全く気にしていない。行事が終わり汚

れた晴れ着はどうしたのだろうか、多分洗わず来年は弟や妹がそのまま着たのではないかと思う。

江戸錦絵のジャンルに春画がある。上質の物は誰でも名を聞けば知っている一流の絵師の作品に多く、春信、清信、歌麿、北斎、豊国、国芳、英泉等が独自の画風で、春画の作品を残している。寝室や小道具が細部に至るまで細かに描写されているが、ここでは蒲団、夜着、寝巻、長襦袢に注目したい。

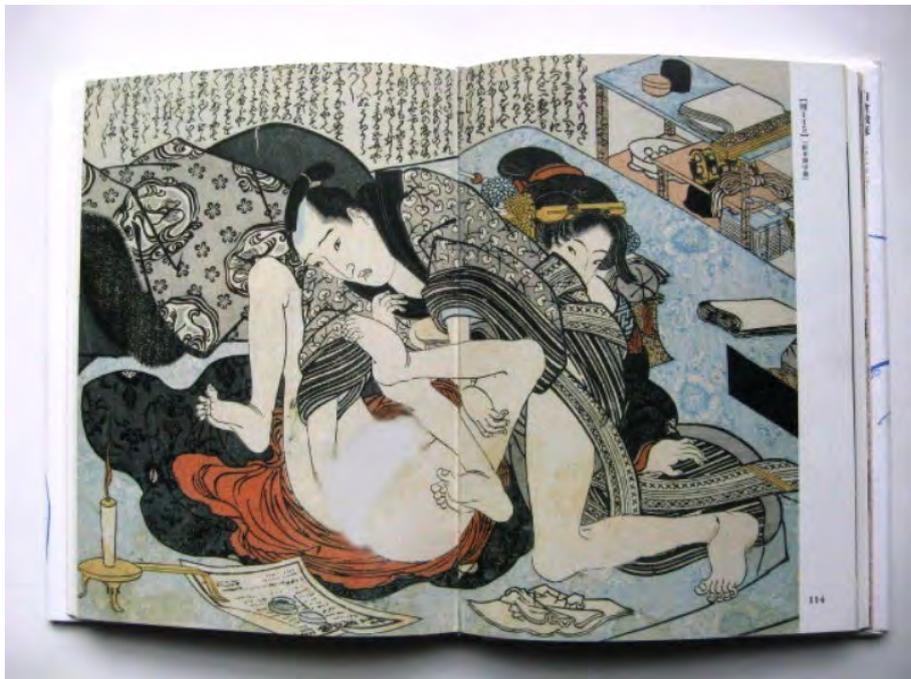


図-8 絵本 開中鏡

一般に敷布団、掛け布団共に文様染の布を用い、二人がゆっくり寝られる位十分な大きさに仕立てられている。現在の様に蒲団に敷布や包布は用いないで、そのまま直接横になる。関西人には馴染みがないが、当時の江戸では夜着または搔巻と呼ぶ袖付きの掛け布団を使っている。男女同柄色違い等、粋な計らいが見受けられる。歌川系の家元豊国の『絵本開中鏡』(文政6年1823版)の図では、敷布団は唐草文様を型置

きして、薄色に藍染したものである。男女共に更紗文様の着衣がある(夜着か着物か分からない)。画面奥に大柄の更紗の掛け布団が見える。☆^{vi}

以上述べたように、文様染の系譜は海外の技術を適当に取り入れながら、日本国内で、千数百年の歳月をかけて醸成し、摺りの技術を展開して、世界に類の無い文様染を完成した。しかし、産業革命の洗礼を受けてない日本の文様染は、鎖国の終結とともにヨーロッパの先進技術を導入し、手工業から機械工業へと転身を図ることになる。

(註) ☆

ⁱ 日本絹人絹織物史 昭和34年2月25日 婦人画報 P-66

ⁱⁱ 紅毛船端物切本帳について 東京国立博物館美術誌3月号 No. 456
小笠原小枝 石田千尋

ⁱⁱⁱ 和更紗の文様染 吉岡幸雄 紫紅社 P-253

^{iv} 浮世絵に見る江戸の子どもたち 中城正堯 小学館 2000.11.20 P-5

^v 浮世絵に見る江戸の子どもたち 中城正堯 小学館 2000.11.20 P-210

^{vi} 春画に見る江戸の性戯考 白石敬彦

(株)学研パブリッシング 2010.10.12 P-114

奈良のこと（古都）

（3） 東大寺（大和国金光明寺）

奈良に来た観光客の大半は、東大寺の大仏さんと奈良公園の鹿がお目当てのようである。

* 金光明四天王護国之寺 *

聖武天皇が長男基（もとい）親王の菩提を弔うため、728年に建てた「金鐘山寺」が東大寺の前身と云われており、現在の三月堂（法華堂）の北半分がそれに当たるようである。741年に詔が発せられ全国に国分寺が建立されるが、その大本締めとして金鐘山寺が昇格して「大和国金光明寺」（金光明四天王護国之寺が正式名称）となる。

国分寺は全国に70寺建立されるが、国家の平安と国民の幸福を護ることを目的としている（天下泰平・万民豊楽）。

奈良時代のお寺ではお葬式をしない。（今でも同じ）

南都6宗（法相、俱舎、三論、成実、華嚴、律）は平安2宗（天台、真言）と異なり、学問的な仏教の研究が目的で、現代の大学に近い存在であった。国家鎮護を願って、仏教を通じて先進文明の導入を計り、政治や文化の発展に寄与した。（政治的には、平安遷都の時に政治への介入が嫌われ、お寺は奈良に取り残される事になる）

平安2宗は民衆個人の救済を目的としており、勿論お葬式もする。東大寺や興福寺には檀家が無く、寺の僧侶が亡くなると、他宗に頼んで葬式をしなければならない。

* 東大寺 *

都の東にある大寺なので、東大寺と呼ばれるようになった。南大門に「大華嚴寺」の額が掲げられているが、東大寺の別称で華嚴宗のお寺である。



奈良時代のお寺は通常南向きに建てられている。南側の南大門がお寺の正門である。

主な建造物は、南大門（国宝）、大仏殿（国宝）、三月堂（国宝）、二月堂（重要文化財）、転害門（国宝）、鐘楼（国宝）、戒壇院、正倉院（国宝）、などである。

（正倉院は明治になって東大寺の手を離れ、国の所有となっている）

国宝や重要文化財の仏像も多く、大仏、南大門の金剛力士像、戒壇院の四天王塑像、三月堂の不空絹策観音や執金剛神立像、などである。

修学旅行の記念写真の定番は、鏡池の前で大仏殿をバックにして撮るが、ラッシュにな

ると順番を待つ子供達でごった返し、大変な騒ぎである。余談になるが、鏡池名前の由来は池の中に弁天様を祀った島があり、この島に渡る道と島の形が「手鏡」に似ているからである。

大仏殿（金堂）

聖武天皇の御代には良くないことが重なった。天災（地震、台風、干魃）に襲われたり、伝染病（コレラで藤原不比等の4人の息子達も死んでしまう）が流行ったりする。天皇は己の不徳により世の混乱が起こったものと考え、仏の力借りて国を治める決心をし、743年に大仏造営の詔を発した。

盧舎那仏の放つ光は宇宙の隅々まで照らし、あらゆる願いや困難を救って呉れる。通常の仏のサイズは丈六（約3m）であるが、聖武天皇はこの10倍の大きさで作った。十と云う数字には無限大の意味もあり、大きな力を持った仏に国家鎮護、天下泰平、万民豊樂を願ったものと思われる。

大仏の大きさは、座像で約15m（立てば30mの大きさ）である。全身に金メッキが施され、まばゆい姿であったと想像される。

大仏は749年に完成、752年に開眼供養が行われた。この造営に当たり、大勧進・行基が天皇の依頼を受け、勧進を行い全国民の力を結集して完成に漕ぎ着けた。貧しき者も、富める者も勧進に協力した。今も昔も大仏は日本国民の仏なのである。（鎌倉の再建では大勧進・重源が、江戸の再建では大勧進・公慶が、全国を勧進し浄財を集めた。）

大仏殿はその後、二度に亘り戦火に見舞われる。一度目は1180年の「平重衛南都焼き討ち事件」、二度目は1567年の「松永久秀／三好の戦い」で、何れも大仏殿は全焼し、青銅製の仏も熔けてしまう。現在の仏と大仏殿は江戸時代のものである。

大仏殿は創建時には11間（86m）であったが、三度目の江戸の再建時には資金不足のため7間（57m）になってしまう。それでも容量的には世界最大の木造建造物である。また、大仏は膝から下の部分に創建時のものが残っており、二度目の再建（1195年）では金メッキが施されたが、三度目の時には首から下だけを作ってから、約140年間雨ざらしとなっていた。1709年に漸く首が完成したが金メッキは出来なかった。大仏の顔は綺麗であるが、肩から下は錆びて光沢が無いのは、140年間の雨ざらしのせいである。

その他

南大門には有名な「金剛力士像」（運慶、快慶等の作）がある。高さ8.4mで3000個のパーツで出来ている（29人の仏師が69日間で完成した）。南大門も1180年に焼失したが、鎌倉時代に再建されたものが残っている。この再建には重源が活躍した。彼は中国の最新式建築法（大仏様式）を用い、少ない木材で強い建造物を作る事に成功した。800年経ってもびくともしていない。

大仏殿入口石段のすぐ前に立っている「八角灯籠」（国宝・高さ4.6m、日本最大の銅製灯籠）は、二度の火災に耐え創建時のままである。

お水取りで有名な二月堂は1667年に火災で全焼するが、お水取りの法要（修二会）は途切れることなく約1250年の間続けられている。



三月堂は東大寺発祥の地であり、16体の国宝・重要文化財の仏像を有していたが、現在は修理中で、2013年3月までは拝観が出来ない。この間は2011年10月10日に開館した「東大寺ミュージアム」で、本尊の不空絹策観音や塑像の日光、月光菩薩などが拝観出来る。

左の写真は不空絹策観音の被る宝冠である。世界三大宝冠の一つで2万個の宝石で飾られている。(残念ながら、宝冠は修理中で、当分は見る事が出来ない。)

2013年4月に予定の三月堂の修理完成を期待しよう。

戒壇院の塑像四天王像(国宝)は場所が離れているため、見て貰う機会が少なく残念である。

鐘楼と鐘は共に国宝で、鐘の重量は27トンで重さでは日本第3位である。鐘と八角灯籠は何れも創建時のままの姿で、大仏の下半身と同じ銅が使用されている。

正倉院には9000点の御物があり、毎年秋の正倉院展(奈良国立博物館)で約70点が展示される、一度出ると10年以上再登場は無い。2011年の第63回では有名な香木「蘭奢待」が出展され、信長や秀吉の切り取った跡を確かめる事が出来た。

手向山八幡宮

三月堂の南にある手向山八幡宮は東大寺の守り神である。

ここは紅葉の名所で、菅原道真が「この度は幣(ぬさ)もとりあえず手向山 紅葉の錦 神のまにまに」と詠った。神社の中程に「道真の腰掛石」があり、「ここに座ると頭が良くなると云い伝えられている」これを説明すると、修学旅行の生徒は我先に座って写真を撮る事になる。年配の観光客も似たようなものである。

聖武天皇は東大寺の守り神として、九州・宇佐の八幡宮・総本宮「宇佐神宮」を勧請した。宇佐八幡の分社第一号である。

明治の神仏分離まではお寺とお宮は一心同体で、お寺には必ず守り神があった。例えば、興福寺と春日大社、薬師寺と休ヶ岡八幡宮、天理の内山永久寺と石上神社などである。

(明治の革命で多くが廃寺になった。天理の内山永久寺も廃寺となり、僅かに「割拝殿(国宝)」が石上神宮に残るのみである。)

(色染・昭35 坂東久平)

会員名簿

会員数： 191名

平成25年3月22日

▲は携帯メール

2期：H23. 10～H24. 9

3期：H24. 10～H26. 3

	分類	氏名	メール	2期	3期
1	S14	小崎 輝郎		◎	
2	S14	古川 敏一	○	◎	◎
3	S19	小原 究		◎	◎
4	S19	宮永 正夫		◎	◎
5	S20	小黒 清明		◎	◎
6	S23	勝田 房治		◎	◎
7	S23	小出 宏		◎	◎
8	S23	中川 益男	○	◎	◎
9	S26	水谷 昌史	○	◎	◎
10	S28	稲井 新郎		◎	◎
11	S28	植村 二郎	○		◎
12	S28	田尻 弘		◎	◎
13	S28	西川 三郎	○	◎	◎
14	S28	萩原 理一	○	◎	◎
15	S28	吉岡 悠	○	◎	◎
16	S29	北浦 孝悦		◎	◎
17	S30	井上 治彦	○	◎	◎
18	S30	末包 光太		◎	◎
19	S31	井尻 三郎		◎	◎
20	S31	岡野 志郎		◎	
21	S31	小倉 昭		◎	◎
22	S31	北川 全應		◎	◎
23	S31	上妻 喜久男	○	◎	◎
24	S31	小阪 能一	○	◎	◎
25	S31	中山 茂		◎	◎
26	S31	安田 功	○	◎	◎
27	S31	湯川 謙吉		◎	◎
28	S31	米長 粲	○	◎	
29	S31	和田 弘	○	◎	◎
30	S32	岩田 彬	○		
31	S32	坂井 武司	○	◎	◎
32	S32	阪田 昭蔵	○	◎	◎
33	S32	塩路 貴		◎	◎
34	S32	原 栄	○	◎	◎
35	S32	松本 日出男	○	◎	◎
36	S33	佐々木 忠夫		◎	◎
37	S33	白須 勝明	○	◎	
38	S33	出口 勲		◎	◎
39	S33	三宅 昭彦			
40	S34	大多和 正己		◎	◎
41	S34	金久 俊伍		◎	
42	S34	後藤 芳弘	○	◎	◎
43	S34	佐藤 忠孝	○	◎	◎
44	S34	高瀬 進	○	◎	◎
45	S34	萩原 章司		◎	◎
46	S34	間 照夫		◎	◎
47	S34	藤井 敏昭	○	◎	
48	S34	甫天 正靖	○	◎	◎

	分類	氏名	メール	2期	3期
49	S34	松本 哲哉		◎	◎
50	S34	横山 清一郎	○	◎	◎
51	S34	吉岡 泰男	○	◎	◎
52	S35	安部田 貞治	○	◎	◎
53	S35	飯井 基彦	○	◎	◎
54	S35	衛藤 嘉孝	○	◎	◎
55	S35	大西 雄一	○	◎	◎
56	S35	黒田 亘哉	○	◎	◎
57	S35	鈴江 登	○	◎	◎
58	S35	園田 英雄	○	◎	◎
59	S35	中村 準市	▲	◎	◎
60	S35	林 俊郎	▲	◎	◎
61	S35	坂東 久平	○	◎	◎
62	S35	法貴 英夫	○	◎	◎
63	S35	松岡 謙一郎	○	◎	◎
64	S35	松木 雄一郎	○	◎	◎
65	S35	松本 繁男		◎	◎
66	S35	山田 英二	○	◎	◎
67	S36	市原 守		◎	◎
68	S36	奥 正夫	○	◎	
69	S36	加藤 維希夫	○	◎	◎
70	S36	松本 光之助	○	◎	◎
71	S36	横山 隆		◎	◎
72	S37	池田 晴充		◎	◎
73	S37	市川 喜代始	○	X	◎
74	S37	岩坪 正光	▲	◎	◎
75	S37	奥山 正夫		◎	◎
76	S37	川崎 登也		◎	◎
77	S37	阪口 文雄	○	◎	◎
78	S37	佐原 肇	○	◎	◎
79	S37	柴田 二三男	○	◎	◎
80	S37	高井 禎之	○	◎	◎
81	S37	福西 興至	○	◎	◎
82	S37	三崎 歩	○	◎	◎
83	S37	山崎 治忠	○	◎	◎
84	S37	山中 寛城	○	X	◎
85	S38	伊東 慶明	○	X	
86	S38	久後 之弘	○		
87	S38	小島 堯	○	◎	◎
88	S38	小柳 健一	○	◎	◎
89	S38	中東 弘三	○	◎	◎
90	S38	橋本 清	○	◎	◎
91	S38	早貸 正幸	○	◎	◎
92	S38	廣瀬 良樹	○	◎	◎
93	S38	三河 明義	○	◎	◎
94	S38	森本 國宏	○	◎	◎
95	S38	渡辺 勝彦	○	◎	
96	S39	浅井 敬造		◎	◎

会員名簿

会員数： 191名

平成25年3月22日

▲は携帯メール

2期：H23. 10～H24. 9

3期：H24. 10～H26. 3

	分類	氏名	メール	2期	3期
97	S39	田中 邦雄	○	◎	◎
98	S39	森下 公雄	▲	◎	◎
99	S40	鈴木 允子		◎	◎
100	S40	田中 興一	○	◎	◎
101	S40	内藤 隆	○	◎	◎
102	S40	安田 恵一	○	◎	◎
103	S41	梶原 俊明	○	◎	◎
104	S41	中尾脩一		◎	◎
105	S41	西岡 靖之	○		
106	S41	吉岡 啓	○	◎	◎
107	S41	和田 明紘	○	◎	◎
108	S42	梅木 弘道	○	◎	◎
109	S42	松原 昭夫	○		
110	S42	横山 彰夫	○	◎	◎
111	S44	小谷 正夫	○	◎	
112	S44	藤本 昌則	○	◎	◎
113	S44	山平 知伸		◎	
114	S44	吉井 康浩			
115	S45	飯塚 志保	○	◎	
116	S45	上田 善治	○		◎
117	S45	後藤 幸平	○	◎	◎
118	S45	坂本 修三	○	◎	◎
119	S45	竿山 重夫			
120	S45	嶋田 幸二郎	○	◎	◎
121	S45	堀田 英志	○	◎	
122	S45	堀口 祐司	○	◎	◎
123	S46	石田 泰和	○	◎	
124	S46	北尾 好隆	○		◎
125	S46	桑原 正樹	○	◎	◎
126	S46	小柴 雅昭	○	◎	◎
127	S46	成見 和也	○	◎	◎
128	S46	樋口 郁雄	○	◎	◎
129	S46	米田 久夫	○	◎	
130	S47	小林 繁夫	○		
131	S47	高木 恒男	○	◎	◎
132	S47	瀧本 哲雄	○	◎	◎
133	S47	山口 繁雄			
134	S47	吉澤 恵子	○	◎	◎
135	S48	犬伏 康郎	○	◎	◎
136	S48	橋本 清保	○		◎
137	S48	服部 和正		◎	
138	S48	山本 博	○	◎	◎
139	S49	西島 洋美	○	◎	◎
140	S50	阿久根 隆行		X	◎
141	S50	石田 俊平	○	X	◎
142	S50	小沢 七洋	○	X	◎
143	S50	木下 修治	○	◎	◎
144	S50	熊見 孝彦		X	◎

	分類	氏名	メール	2期	3期
145	S50	後藤 康博	○	◎	◎
146	S50	柴岡 浩	○	◎	◎
147	S50	高野 良	○	X	◎
148	S50	寺澤 通隆	○	X	◎
149	S50	中川 順之	○	◎	◎
150	S50	橋角 誠		X	◎
151	S50	濱田澄郎	○	X	◎
152	S50	松永 実	○	X	◎
153	S50	松原 美砂子	○	◎	
154	S50	松本 博	○	X	◎
155	S50	水野 庸子	○	X	◎
156	S52	有吉 晶子	○	◎	◎
157	S52	白井 文朗	○	◎	
158	S53	伊山 正三	○	◎	◎
159	S53	高橋 伸和	○	◎	◎
160	S53	西村 千佳子	○	◎	◎
161	S53	藤村 知男	○	◎	◎
162	S53	宮崎 義也	○	◎	
163	S53	森川 滋明			◎
164	S53	山田 衛	○	◎	
165	S54	柏原 俊博	○	◎	◎
166	S54	清水 多佳子	○		◎
167	S54	清水 穂積			◎
168	S54	土井 謙吾		◎	◎
169	S55	荒木 泰博	○		
170	S55	芝 泰清			
171	S56	今井 義彦	○		
172	S56	中野 峰夫	○		
173	S57	荻野 毅	○	◎	◎
174	S57	神野 友香子	○	◎	◎
175	S58	青木 伸治	○		
176	S58	岡 修也	○	◎	
177	S58	垣田 直彦	○	◎	◎
178	S58	姫野 貴司	○	◎	
179	S58	藤上 和久	○	◎	
180	S58	宮原 雅彦	○		
181	S59	穴迫 康之	○		
182	S59	島田 太朗	○		
183	S59	吉岡 崇	○		
184	S60	西内 誠		◎	
185	S62	木村 由和			
186	S63	井藤 晶基	○		◎
187	S63	川端 利香	○		
188	S63	原 彰宏	○		◎
189	T1	池上 俊		◎	
190	T2	阪上 智子	○		
191	T4	中谷 昭彦	○	◎	◎

京都工芸繊維大学色染物質会事務局

〒610-0121 城陽市寺田今堀 108-15

TEL 0774-52-4909

MAIL sikisen@matugasaki.com

URL <http://www.matugasaki.com>

発行人 色染物質会 会長 佐藤 忠孝